

考古学からみた鴨東の歴史 — 旧石器～古墳時代 —

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

「鴨東」は、おおまかに鴨川の東側の地域を指しています。人によって「あの辺やな」という範囲は微妙に異なっているようですが、ここでは北白川・吉田・岡崎を指す語としておきます。

鴨東は、北東の比叡山に連なる東山連峰の西裾にひろがる扇状地上に位置しています。この扇状地は東山連峰から南西へ流れ出る白川などによって形成されていて、おおむね東から西への緩やかな傾斜地となっています。扇状地の西端には鴨川が南へ流れています。独立丘陵の吉田山を取り囲むように遺跡が分布します。鴨東には京都大学吉田キャンパスがあり、京都市内でも多くの発掘調査が行なわれていて、遺跡の様子が明らかになっている地域です。

鴨東の歴史は古く、旧石器（先石器）時代に遡ります。これまで人の生活した明らかな痕跡は見つかりませんが、後世の遺構などに混



周辺航空写真（南から、京都大学文化財総合研究センター提供画像に加筆）

じって石器などが見つかりています。また、約29,000年前から26,000年前に鹿児島湾で火山の大噴火が起こり、その時に噴出した大量の火山灰（始良^{あいら}Tn火山灰）が広範囲に降ったことが知られています。岡崎遺跡では、現在の京都市動物園の調

査で、地表下2mの深さに厚さ10cm程の始良Tn火山灰の堆積を見つけました。その上に溜まった腐植土層に踏み込まれた大型偶蹄類（シカやウシの仲間）の足痕が残されていて、人の食料となる動物の存在が確かめられました①。



① 大型偶蹄類足跡（西から）【岡崎遺跡】



② 縄文時代晩期 貯蔵穴（北から）【北白川追分町遺跡】

京都大学文化財総合研究センター提供



③ 弥生時代前期 水田（北から）【吉田二本松町遺跡】
京都大学文化財総合研究センター提供



④ 弥生時代中期 方形周溝墓 土器出土状況（西から）【岡崎遺跡】



⑤ 古墳時代中期 方墳（南から）【吉田二本松古墳群】
京都大学文化財総合研究センター提供



⑥ 古墳時代後期 円墳（西から）【岡崎遺跡】

縄文時代（約 16,000 ～ 3,000 年前）は、人が土器を作り始めた時代です。日本での土器作りの始まりは世界史的に見ても古いと考えられています。鴨東では、上終町遺跡かみはてちょうで早期の竪穴建物1棟と集石群が見つかりました。京都では最も古い竪穴建物です。ここは周辺と比べて標高の高い所で、この後、徐々に標高の低い南へ生活の拠点を移動させていきます。北白川追分町遺跡では晩期の埋没林や人の足跡、堅果類を水にさらすための貯蔵穴にトチノミやイチイガシが貯蔵されたまま見つかりました②。

弥生時代（約 3,000 ～ 1,700 年前）には大陸から稲作が伝えられます。鴨東でも、前期の終わりごろに北白川追分町遺跡・吉田二本松町遺跡で水田が作られ、米作りが始められました③。いずれも、地形の起伏に合

わせて畦あぜで区切り、くまなく水が行き渡るように工夫された小区画水田です。ただ、この水田も大規模な土石流が連続して起こったため、埋没してしまいます。その堆積は細砂・粗砂・礫などからなっており、最大 2 m の厚さがあります。直径が 1 m を超える巨石も含まれていて、広範囲に及びました。中期以降の人々はこの堆積の上で生活しました。中期には、北白川追分町遺跡・吉田二本松町遺跡・岡崎遺跡などで方形周溝墓が多く造られました。これらの溝から、墓へ供えられた多様な土器が出土しました④。後期には、岡崎遺跡で竪穴建物・方形周溝墓・土坑などが見つかりました。

古墳時代（約 1,700 ～ 1,400 年前）は奈良盆地を発端として古墳が造られる時代です。前期の初め頃、岡崎遺跡で方形周溝墓（方墳）や溝が

見つかりました。中期には吉田二本松古墳群が見つかり、これまでに方墳 9 基が確認されました⑤。そのうちの 1 基の周溝からは円筒埴輪・朝顔形埴輪のほかに、人物・馬形・家形の形象埴輪が出土しており、墳丘上に埴輪を樹立し、他の古墳よりもひと回り大きいことから当時の有力者の墓とみられます。後期には岡崎遺跡で竪穴建物 5 棟と掘立柱建物 1 棟、円墳の周溝が 2 基見つかりました⑥。ほかに、吉田本町遺跡では終末期の円墳の周溝が 2 箇所で見つかりました。

このように、鴨東では旧石器時代から古墳時代までの豊かな歴史が発掘調査によって明らかになってきています。そして、この後、仏教の伝来にともない、寺院が建立される時代へと続きます。

（高橋 潔）